

# 博物館だより



No.121

平成28年12月1日

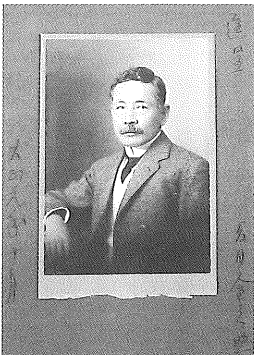
みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

## 博物館新展示・ここに注目! 小宮豊隆資料

### 「漱石コレクション」Vol.8

夏目漱石没後百年の今年、文豪ゆかりの事物は注目の的、博物館所蔵の「小宮豊隆資料」もその一つです。漱石の愛弟子で町出身の文芸評論家が愛蔵した、漱石ゆかりの逸品をご紹介します。シリーズ。今回はコレ!

●夏目漱石肖像写真 大正元年9月撮影  
漱石が有名なのは、その著作が時を越えて人々に愛されるのはもちろんですが、ある「肖像写真」によって知られるようになったことも大きいといえます。その写真が左に示す二枚で、



▲台紙の余白に小宮宛の恵存署名がある

特に下段のものは昭59〜平19年の間存命の方は皆さん必ず目にしています。というのも、この写真の像影は右の間発行の千円札に使用されていたからです。なお注意したいのは、この二枚の写真が漱石像として有名なだけでなく、次の点で歴史的にも深い意味を持つという点です。具体的には①二枚とも左腕に喪章を付け7月崩御の明治天皇へ弔意を表している ②撮影は小川一真という名カメラマンで工芸的価値が高い ③撮影6日前に將軍・乃木希典が自刃。撮影時の漱石は、のちの代表作『こころ』に繋がる思索を深めていた可能性がある等の点です。

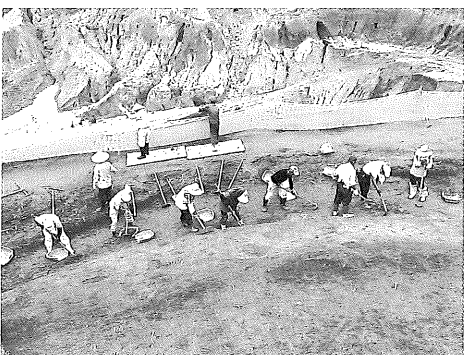
## 講座・教室・催し物ガイド 12月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】 12月3日(土) 9時30分
  - 【古文書講座】 12月10日(土) 10時00分
  - 【古典かな講座】 12月17日(土) 9時30分
  - 【みやこ学講座】 ◆現地見学会 12月17日(土) 9時00分
- ※見学会等は別途ご案内します。  
※日程等変更となる場合があります。

## 文化遺産ボランティア養成講座

町の文化遺産の保護・活用の取組みにさまざまな形で参加・支援するボランティアを養成する連続講座で、今期は解説ガイド育成に取組みます。途中参加も歓迎です。詳しくは博物館へ。  
・日時：12月17日(土) 9〜16時  
・内容：先進地見学(添田町英彦山) 添田町観光ガイドボランティアの皆さんの活動と現場に随行します。  
・参加費：1,000円

## 11月の業務日誌から



▲古墳を取り巻く「濠」の調査。当時の姿が現れました。

犀川花熊にある三ツ塚古墳群の発掘調査が11月を迎え本格化しています。調査が進むにつれ、造られた当時の形が良く残る古墳であることが分かり、当時の土木技術の高さに驚かされます。

11月3日(木・祝)、NPO法人学研都市留学生支援ネットワークの皆さんが博物館を訪れました。8ヶ国・4大学からの留学生の皆さんが、みやこ町の先人や文化財について詳しく学びました。



▲神楽の御先鬼につかまったボクは、思わず涙目です。

11月3日(木・祝)、豊前国府跡公園で、まつり実行委主催の「第5回豊前国府まつり」が行われました。当日は様々な出店のほか、野外ステージで上伊良原神楽や文化協会の芸能オンステージが上演されました。また「子ども広場」ではバルーンアートや、火おこし・勾玉づくり体験が行われ、大勢の親子が体験にチャレンジしました。開催が秋に変更されて初めてのまつりでしたが、好天にも恵まれ、例年以上の人出でにぎわったようです。ご参加・ご協力頂いた皆さん。お疲れ様でした、そしてありがとうございました!



▲町の歴史や文化についてのさまざまな質問が飛び出しました。



▲火をおこすのにひと苦勞。昔の人はすごい!

「文化のみやこづくり」プロジェクト  
**第4回みやこ町古墳まつり**

**イベントレポート**

— 記念絵画・作文コンクール最優秀作品のご紹介&関連行事点描 —

今年のまつりも発見と学び三昧!

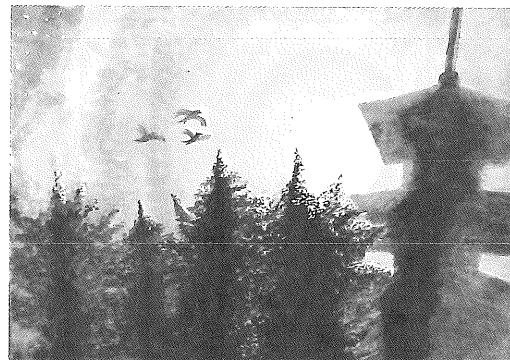
古墳をはじめとしたふるさとの豊かな文化資源を活かした町づくりの一環となる学びの祭典「みやこ町古墳まつり」(10/24日開催)。

今年は秋月街道ネットワークの会(朝倉市)の皆さんの協力のもと「『秋月の乱』終結140年」をテーマに様々な「楽習」に取組み、200人近い皆さんの参加を得て、ふるさと再発見の一日を過ごしました。

ここでははまつりで披露された様々な「創造」「(再)発見と学び」「ふるさと遺産」の様子をご紹介します。まつりにご協力頂いた皆さん、ありがとうございます!

★創造」記念絵画・作文コンクール

わたしの町の過去・現在・未来 絵画  
※今年も秋月の交流を記念した特別賞「秋月・豊津文化交流賞」が設けられ、博物館友の会から運営されました。



▲グランプリ「みやこ町三重塔」 育徳館中2年 重光珠代さん



▲当日の表彰式に参加した皆さん。おめでとうございます!



▲秋月・豊津文化交流賞「みやこ町の三重の塔」 勝山中2年 松本友里さん

歴史たんけん作文 最優秀作品  
**養島のノリづくり**

築城小学校(築上町) 6年 松井宏樹

ぼくのおじいちゃんは、養島でノリをつくっていました。おじいちゃんは「おじいちゃんがつくったノリは養島でいちばんおいしかったぞ。」とよくじまんにしていました。ぼくは、おじいちゃんにノリづくりのことを聞いてみようと思ひ、おじいちゃんに、「おじいちゃんがつくっていたノリのことを教えてください。」と言っておじいちゃんにノリづくりのことを聞きました。おじいちゃんはちょっと嬉しそうに顔を覗かせているんことを教えてくれました。

まず、おじいちゃんがどうしてノリづくりをするようになったかと言うことから話してくれました。ノリづくりは、おじいちゃんのお父さんつまりぼくのひいじいちゃんがお父さんというところでした。

当時、漁をしていたひいじいちゃんといひばあちゃんは冬の間は魚が捕れず、貝を掘ることが漁の中心だったそうです。体の小さなひいばあちゃんは、たくさん採った貝を家まで持って帰るのが重くて、きつくて、「良い仕事はないか」考えたそうです。そこで、ひいじいちゃんに相談して、ひいばあちゃんの実家(山口県の宇部)でしていたノリづくりを同じ遠浅の養島でしてみたらどうかと提案したそうです。

早速、その年の冬、昭和十八年頃(おじいちゃんが十歳の時)宇部から種付けをした竹を養島に運んでノリづくりをしたそうです。ノリの養殖がどうにか出来るようになったので、次の年は種付けをした竹を宇部から運んでくるのは大変なので、地元で種付けの方法を考えました。

豊前海でノリが自生している所、(ノリづくりをしている所) 曾根と吉富だけだったそうです。そこで、曾根の漁師さんたちの種付けだけ曾根の海岸でさせてもらい、種付けした竹を養島で育てるという方法でノリの養殖をすることになったそうです。

ノリの養殖について調べると、ノリの養殖技術が確立するのは、ノリの胞子がカキなどの貝殻で夏を越すということが分かった昭和三十一年以降だということでした。ひいじいちゃんは、ひいばあちゃんは、養殖技術が確立される前から、ノリの養殖をしていたんだとすると、「すごいことをしていたんだな」と思いました。

そうして、初めは三軒、そして十軒と養島でノリづくりがしたいという人がだんだん増えていったそうです。ひいじいちゃんは、ノリづくりをしたという人に、自分のノリづくりを手伝わせるといふ方法で、ノリの作り方を教えてあげたそうです。ノリづくりも機械化がすすみ、多いときには百軒を超える家が養島でノリを作っていたと聞いたときはおどろきました。

おじいちゃんは、そんな中でも、ノリづくりを養島で始めた誇りなのか、周りの人に、「ノリ博士」と言われるくらいノリの育て方を研究したそうです。どんなに寒くても、潮がひいてノリの見に行けるときはノリを見て、どれくらいお日さまに当たるのがノリが良く育つか?良い色になるか?おじいちゃんの育て方と養島の海に合ったノリの種類は何か?そんな工夫を続けて来たそうです。

お父さんに、ノリづくりのことを聞くと、「冬になると、よくノリづくりをしているおじいちゃんの友だちが家に遊びに来てノリの話をしてたよ。」とおじいちゃんもノリづくりのことを人に教えていたそうです。

そして、養島の子どもは、男は海で子どもなら子どもに出来る仕事。例えば船を持つて大人の仕事に合せて船を引っ張るとか、女の子も陸で子どもに出来る仕事。例えば、ノリをはぐなどをして家の手伝をしていたそうです。

「お父さんが子どもころ、養島の子どもはみんな働き者だった。」と、おじいちゃんもノリづくりのことを聞きながら、一番心に残った事は、ある時期、養島という村の産業の中心だったノリづくりが、ぼくのひいおばあちゃんの「なにか、良い仕事はないかな?」という思いから始まったということに心に残りました。

— まつり会場で見られた「★(再)発見と学び」「★ふるさと遺産(伝統文化)」のようす —



▲慰霊の芸能「犀川の盆踊り」(みやこ町)



▲明治大学 落合弘樹先生による「秋月の乱」研究講演



▲伝統の武家太鼓「光月流太鼓」(朝倉市秋月)